

機関誌

# アクティブ福祉 vol.41 2020.6

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

## 目次

- P2 新型コロナウイルス対策委員会の発足について
- P3 新型コロナウイルス対策委員会の取組報告
- P6 ブロック活動だより
- P7 専門委員会リレー（人材対策委員会）
- P10 センター分科会トピックス
- P11 私の心に残るエピソード

※委員会の開催状況により、一部企画を変更しております。



### 特集 P4

笑顔を引き出す食事への取り組みと制度  
命を守る新型コロナウイルス対策

### 裏表紙 P12

新型コロナウイルス感染症に関する会長メッセージ



P8

外出制限での新たな暮らしへの取り組み



P9

軽費老人ホームにおける新型コロナウイルス感染予防の日々

ツイッターを開設しました！

Facebook 更新中!



高齢協 ウェブサイト



高齢協 アカウント



会長 アカウント



フォローしてね!



# 新型コロナウイルス 対策委員会の発足について

●新型コロナウイルス対策委員会 委員長 **のむら ひろゆき**  
喜多見ホーム 施設長 **野村 博之**

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所においても感染者が発生する事態が生じおり、第2波、3波が懸念される中、情報を共有し対策を考えていくことが重要となります。

こういった中、各区市町村の取り組み状況や、実際に発生した状況や対応状況ができる限りタイムリーに発信するための情報収集を行い、今後の対応に必要な情報を各施設長会および会員の皆様に発信していくことを目的に、特別委員会として『新型コロナウイルス対策委員会』を設置しました。

新型コロナウイルスについては不明瞭な点も多い中、感染予防(対応)に努めながら事業継続をしていかないとなりません。更に密閉、密集、密接のいわゆる『3つの密』の環境を避け、新しい生活様式を取り入れ更に、新型コロナ感染対策に加えて、熱中症対策・暴風雨等の災害対策も考えていかなければいけません。

現在も定期的に委員会（Web会議）を開催し、必要な情報の収集や発信の方法を検討しています。会員の方への情報提供・共有にあたっては東京都高齢者福祉施設協議会のホームページに情報を掲載してまいります。是非、定期的にご覧下さい。

よろしくお願いたします。



委員会メンバー：総務委員長 野村博之（喜多見ホーム）、施設管理検討委員長 高橋三行（新町光陽苑）、センター分科会長 今裕司（あすなろみんなの家）、生活相談員研修委員長 桜川勝憲（中川園）

Web会議の様子（右下から：野村、高橋、今 右上から：桜川、水野情報広報室長・副会長、事務局）

## — 新型コロナウイルス対策委員会の活動状況 —

### ▶ 発症施設への経過、対応状況についての聞き取り ◀

今後想定される、新型コロナウイルス感染症拡大の第2波、第3波に備え、実際に対応にあたられた施設・事業所の情報を聞き取り会員施設間で共有し、感染症の予防、拡大防止に向けた取組みを検討することを目的に、実際に発症した数施設を訪問し発生状況や対応状況の聞き取りを実施しています。

#### 【所感】

- 施設に直接伺いお話を聞くことで、現実にごくここで起きた、発生したとリアルに感じることができました。ある施設長は、「この1か月はほんとに戦場であった」と目頭を押さえ熱く語っているのが印象的でした。
- 「入居者もそうですが、職員の心のケアがとても大事」と話され、施設外でもSNSを利用し相談や悩みを上司が聞き、むしろ団結力が増したとのことでした。
- 初動対応が重要であり、遅れると致命的でクラスターが発生してしまうので、様子見ではなく、いつでも疑うことが必要であることを改めて感じました。
- 法人全体で自治体・保健所・マスコミ・家族等へ対応することが大事と話されていました。
- 各施設、風評被害に悩まされたとおっしゃっていましたが、一方で、以前からの地域とのかかわりにより助けてくれる住民も多く励みになったとお話も伺えました。

今後、聞き取り情報や今後の情報を会員の皆様に適時・適切に提供し万が一の備えにして頂ければと考えております。

※聞き取りを行った情報を取りまとめたうえ、7月中に発信予定です。

### ▶ 新型コロナウイルス感染症にかかる区市町村の取組み ◀

新型コロナウイルス感染症にかかる区市町村ごとの取組み状況について情報共有を図り、各地域において参考としていただくこと、また、今後の要望活動等への参考にしていくことを目的に『新型コロナウイルス感染症にかかる区市町村の取組状況調査』を実施しました。

集計結果についてはすでにホームページに掲載しております。詳細はホームページをご参照ください。

# 笑顔を引き出す食事への取り組みと制度 命を守る新型コロナウイルス対策

前号では大都市東京の現状と介護現場の未来について、そのだ修光氏（全国老人福祉施設協議会 常任理事）と、田中雅英氏（東京都高齢者福祉施設協議会（以下、高齢協）副会長、博水の郷 施設長）、中村 綾里氏（東京ケアリーダーズ、ひのでホーム介護職員）にお話しいただきました。

今号では、高齢者福祉施設での食事と、新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の対応について、そのだ修光氏（同上）、高橋三行氏（高齢協 施設管理検討委員長、新町光陽苑 施設長）と田中浩代氏（弘寿園 栄養士、2019年「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」ランチ部門最優秀賞）にお話しいただきました。

聞き手：高齢協 副会長兼情報・広報室長 水野敬生

※対談は4月15日にオンライン会議にて実施されました（発言は当時の状況に基づく）。

## 大都市東京でのよりよい食事提供のための制度

—— 介護保険制度での施設の食費は消費税率5%の時期から長らく1380円で、10%増税時にわずか12円しか上がりませんでした。各施設では物価に対して低予算で満足いただける食事を提供しています。最初に東京都の施設での食事提供の状況をお聞かせください。

**高橋** 私が施設長を務める新町光陽苑は2013年の開設時、毎日おいしい食事を召し上がっていただけるよう、品質や勤務体制を重視して給食業者を選定し契約しました。当時は管理費が月205万、食材費は1日730円でした。

消費税が5%から8%になると、業者から管理費を上げてほしいとの話があり、月240万円となりましたが、2017年にはこの状況では撤退せざるを得ないと再度の相談があり、管理費は月247万円に上昇しました。

10%への増税後、食費は1392円となりましたが、これでは材料費や設備費、管理費、人件費の上昇を賄えません。それでもご利用者満足のため、赤字でも運営してきましたが、最終的には法人本部からの要請を受け、ご利用者とご家族に説明して負担額を220円上げました。それでも月に50万円程度の持ち出しとなっています。

このように、東京都の施設食の運営は厳しい状況にあります。

**そのだ** 現在、施設食の委託を受ける業者も減っており、早急な改善が必要です。

8%への増税時には食費を見直すべきという声を上げる人がおりませんでした。10%への増税時に見直しの意見を上げて、8%増税時に議論がなかったため了承したと受け取られてしまっております。しかし、現状を受けて来年度の介護保険改定に向けては食費を上げなければならないと強く感じています。

高齢者にとって食事は日々の楽しみの大きな要素です。認知症が、食事により季節の変化を認識することもありますね。

—— 田中さん、グランプリ受賞おめでとうございます。年々作品のレベルの向上を感じています。食事を作るうえでの想いや、食材費が限られる中での工夫などを聞かせてください。

**田中** ご利用者の笑顔とおしかったという声を引き出すことを第一に考えています。そのため、予算が限られ食材が少なくても、調味料やよい出汁をとるなどの味付けで工夫しています。食材調達は業者に委託していますが、季節の野菜を取り入れるなどで変化を出しています。

食感でも工夫しています。受賞したメニューではご利用者からのリクエストの多い蓮根を、食感を残しつつ食べやすくなるよう薄切りするなどの調整を重ねました。

—— ご利用者からの意見はどのように集めていますか。



**田中** 下膳の際に感想を伺っています。ご意見を反映しやすいのは直営厨房ならではのメリットです。

—— 厨房ではパートの方も懸命に働いていますが、時給は低い状況になってしまっています。

**田中** 職員とパートは勤務時間・仕事内容ともほぼ同様なので、近づけるべきです。職員の給与は年齢によるところが大きく特別な手当が出しづらい状況です。懸命に働く人の励みになる手当を望みます。

**そのだ** 現状、介護職に多くの加算がついていますが、福祉施設はチームケア。現場での介護と食事提供はご利用者の人生を支援する意味で同じですので、全職種の給与が底上げされなければなりません。厨房の方、さらには介護に関わる全ての方に、働いていてよかったと感じてもらえるべきです。

—— 施設では利用者の高齢化や病状に応じてミキサー食などの区分、また、個々の食の好みも把握して、きめ細かな食事提供をしています。その維持のための要望はありますか。

**高橋** 東京は物価も人件費も高く、食事提供費用が大きくなります。改善方法の一つとして、介護報酬のように物価を考慮した食費に対する地域係数も検討頂けないでしょうか。

**そのだ** 例えば最低賃金でも東京と地方では大きな差があり、そういった声が出ることも当然です。これから様々な形で取り組んでいきます。

制度の部分を整えていけば介護現場は働きやすくなり、人材不足も解消していくと思います。

## 命を守る福祉施設のコロナ対策

—— コロナ対策では、そのだ常任理事には高齢者福祉施設への備品や衛生用品の供給のご協力をご協力いただき誠にありがとうございます。

**そのだ** コロナの影響で、介護現場の人手不足はより深刻化しています。社会福祉施設ではその状況下でも感染対策をしっかりしており、その努力に感謝しています。

感染対策支援のため、マスクや防護服を介護施設に優先的に回せるよう、厚生労働省からの通達が出ています。この非常事態に対応できる配置基準の検討も要請しています。

現在医療従事者は保育サービスを優先的に受けられますが、介護分野でも同様の制度が必要です。また、休止要請を受けた施設は行政からの保証があるべきです。

—— 現場はどのようにコロナ対策をしていますか？

**高橋** インフルエンザ対策同様、職員には出勤前に検温を行い、出勤時に体温を記入しています。手洗いうがいとアルコール消毒を徹底し、朝礼時は生活での自粛を呼びかけています。

入浴はご利用者の楽しみの一つですが、密接が発生する空間となるため、週4回の入浴を今は週2回にしています。

**田中** 厨房でも常時、マスク、手洗い、アルコール消毒、検温をしています。休憩時も間隔をあける、休憩場所を分散するなどしています。

**高橋** デイサービスは感染予防対策のうえで、ご利用者やご家族が心配であれば、生活に支障のない範囲でお休みいただいています。ショートステイ施設も同様で、不安があれば状況改善後の利用を案内しています。

デイサービスの現在の利用率は6割程度で、ご利用者の間隔をあけたプログラムを行うなどで対応しています。

**そのだ** 現在、入浴対策は厚生労働省に申し入れています。

デイサービスもショートステイ施設もご利用者の減少はやむを得ませんが、施設のケアマネジャーによる電話での体調確認や指導でも介護報酬はもらえる仕組みがあります。

職員またはその家族に感染者が出ると、14日間勤務できなくなるため、人手が足りなくなります。今は、施設での感染を防止することが何よりも大切です。この国難を乗り切るため国も様々な取り組みをしています。共にがんばっていきましょう。



対談の様子



## 地域ブロック会協働活動助成事業 (令和元年度実施)の報告

\*地域ブロック会協働活動助成事業とは……

地域ブロック会の構成員により、協働で実施する事業（研修・広報・調査・その他）のうち、地域ブロック会主催の事業に対して助成を行うものです。

### 【令和元年度決定状況】

ブロック	実施日程	助成事業名・内容	事業種別	助成額
城南	平成31年 4月20日	「福祉・介護のおしごとフェア In せたがや'19」 世田谷区内特別養護老人ホーム施設長会が主催する介護人材対策の合同面接会・相談会。	広報事業	100,000円
青梅	令和元年 5月8日	「羽村市特養施設長会主催 職員合同研修」 介護職員への職務意識の啓蒙を通じ、介護職員をバックアップするための施設における各職種の連携から人材採用に強い組織を作ってゆくことにつながる講演。	研修事業	100,000円
秋川	令和元年 6月23日	「日の出町ハートワークフェア 2019」 日の出町にある福祉事業所が連携して、福祉の仕事を地域の人々に知ってもらい、就職に繋げることを目的とするイベント。	広報事業	100,000円
城東	令和元年 9月21日	「ご近所四施設お仕事見学ツアー」 足立区の特養四施設をマイクロバスで周る仕事の見学ツアー。地元住民に絞った雇用創出事業。	その他	45,000円
八王子	令和元年 10月20日	「第4回八王子介護フェア」 八王子で地域公益活動の一環としてソーシャルワーク機能を生かしたアウトリーチ事業を行うとともに参加施設・事業所の広報を行うイベント。	研修事業 広報事業 その他	100,000円
北南	令和元年 11月2日	「ケアニン 上映会」 立川市内の高齢者福祉施設が介護の仕事の魅力を伝える為の映画「ケアニン～あなたでよかった～」無料上映会。人材確保事業。	その他	100,000円
城東	令和元年 11月18日	「ふれ愛台東まつり」 地域貢献の一環として台東区の事業所を知ってもらうイベント。「つながれひろがれ地域の輪」参加。	その他	100,000円
城北	令和元年 12月2日	城北ブロック合同研修「共に考えるこれからの介護保険制度～未来への提言」 第8期介護保険計画策定に向けて、行政担当者とともにこれからの介護保険制度の在り方を考える。	研修事業	100,000円

\*令和2年度も実施しておりますので、地域ブロック長にご相談の上、申請をお願いします。

# 専門委員会リレートーク!

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会（※）に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えた情報伝えるページです。

社会福祉法人賛育会 中央区特別養護老人ホーム マイホーム新川 施設長 はにゆう たかし  
人材対策委員会 委員長 羽生 隆司

## 現場発！「外国人介護従事者の受け入れガイドブック」発行しました

アクティブ福祉2019年12月号でお知らせしました「ガイドブック」を2020年3月に発行することができました。ご尽力賜りました皆様に心より感謝申し上げます。このガイドブックは、「現場発！」ということもあり、外国人介護従事者を受け入れた経験のある会員施設からなるべく現場の声を中心にお伝えすることで、これから外国人介護従事者を受け入れようとしている施設の皆様に少しでもお役に立てることを願って作成しました。



## 日本人スタッフの声

EPAによる介護福祉士候補者を数多く受け入れている施設にご協力いただき、日本人スタッフの声をまとめました。「外国人スタッフの真摯な働き方を見て、自分の働き方を見直すきっかけになった」「外国人を受け入れたことで日本人スタッフの定着率も向上した」「いろいろな国の人と一緒に働きたい」など前向きな声が多く聞かれました。

## 外国人の声

一方、ベトナム人看護師が日本でインターン中に外国人介護従事者向けに実施したオンラインアンケート結果も掲載しています。技能実習やEPAで来日して、都内介護事業所で働く外国人介護従事者たちの生の声です。総じて満足していることにホッとした気持ちになりましたが、彼らが活躍できる職場づくりのヒントが調査結果にあると思います。ぜひ一度お読みいただければありがたく存じます。

## おわりに

優秀な外国人スタッフが管理職として活躍する施設も出てきました。誰もが活躍できる介護の現場が数多く出現することを願っています。これからも現場の声を集め、改訂版を出していきたいと思っています。

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。



# 「外出制限での新たな暮らしへの取り組み」

●社会福祉法人 合掌苑 かとう ちえこ  
合掌苑東雲寮 加藤 千恵子

## ▶生活が一変◀

合掌苑東雲寮は二人用居室24室、一人用居室2室の定員50名の施設です。平均年齢82歳、平均要介護度2.1、半数の方が介護保険のサービスを利用されています。

今年の2月に厚労省から新型コロナウイルス感染症の予防対策として高齢者施設への面会や外出制限に関する要請を受け、ご入居の皆さんの生活は一変しました。

デイサービスを利用されていた方達のサービス利用については、入浴ニーズの高い方を優先、限定せざるを得ない状況でした。

これまで自由に外出されていた方達は、施設周辺をお散歩するに限られ、施設内でほぼ一日を過ごす状態です。外出制限のお願いをした当初は、無断外出する方もいらっしゃいましたが、集会で世間での現状がどうなっているのかを説明し、日々のご協力に対し職員からの感謝の気持ちをお伝えすることで毎日外出されていた方もルールを守って暮らして下さるようになりました。また、施設での行事やクラブ活動も今まで通りというわけにはいきません。今までアタリマエと思っていた暮らしが、実はかけがえのないことであると皆さんも気づきました。



運動プログラムの様子

## ▶これからをどう過ごしていくのか◀

重要なことは、施設での感染リスクを最小限に抑え、安心と安全を確保しつつ、自立した生活を維持していただくことです。まず第一には、感染症を引き起こさない環境作りです。これまでも居室の換気や手すりの消毒を一日2回実施しておりましたが、現在は一日3回の実施へ強化し新鮮な空気の入替えと消毒を行っています。実施当初の冬場は寒いというお声をいただきましたが、今は習慣となり、職員の呼びかけにスムーズに換気を行っていただけます。

次に自立した生活の基本には心と身体のバランスが重要です。そのために毎朝1階と2階のフロアで30分程度の運動プログラムを実施しています。全身運動から部分ストレッチ、そして呼吸法を取り入れた笑いヨガを行い、心と身体のコンディションを整えています。更に遊び心や楽しみに参加するという視点も大切にしています。参加する毎に日本中を旅するというスタンプラリー形式を取り入れ、約8割以上の方がご参加しています。



参加毎に増えていくスタンプラリー

この機会をどう捉えて新たな養護老人ホームでの暮らしを続けていくのか、緊急事態宣言が解除されたこれからもまだまだ模索は続きます。ご入居の皆さんのご協力と自分たちが感染の媒介者にならないという強い思いと献身的な取り組みを続ける職員に日々感謝です。





# 軽費老人ホームにおける 新型コロナウイルス感染予防の日々

● 社会福祉法人福音会  
軽費老人ホームA型 町田愛信園 生活相談員

むかい よしまさ  
向 良昌

## ▶ 軽費老人ホームの変化と実際 ◀

町田愛信園は、50名の利用者が生活しています。10年以上前に隣に併設されている特別養護老人ホームで私は仕事をしていました。当時は大変元気な利用者が生活しているという印象がありましたが、異動してみると、6割近くが介護認定を受けている現状に大変驚きつつ、軽費老人ホームの役割も年々変化しているものかと考えさせられました。そうは言っても、自立生活の施設です。昨年の外出行事は、いちご狩り、東京ドーム野球観戦、明治神宮花火大会、美術館見学等々と数えきれないほど企画され、自由に楽しく生活しながら、身体機能の維持にもつながっていました。



外出自粛時の施設内イベントの様子

## ▶ 新型コロナウイルスで一変 ◀

全国に緊急事態宣言が出され、当園の生活も一変しました。外出の制限、面会の制限の始まりです。

買い物については、毎週1から2回、果物やお菓子類、日用品の出張販売店が来ています。それでも足りないものは、職員による買い物代行で対応しています。理美容についても、出張による理美容、医療についても、医師による訪問体制を各医療機関と相談を開始しました。これにより、感



利用者と私(向)

染者は出ていません。ただ、外出できないことによる利用者の心理的ストレスや身体機能の低下を次第に感じるようになっていきます。高齢者が集う施設ということで、感染症が発生するとクラスターになるリスクは大変高い場所ですが、新型コロナウイルスの感染予防だけでなく、楽しみのある生活をどのように再開していくか新しい生活を作っていくかという難しいかじ取りが今後必要になってきています。

# 都市部・複合施設内にある 地域包括支援センター

●たいとう地域包括支援センター

さきさか しゅうや  
向坂 修也

## ▶ 地域包括支援センターについて ◀

たいとう地域包括支援センターは、JR秋葉原駅から徒歩10分ほどの場所にあります。担当するエリアにはつくばエクスプレスや東京メトロの駅もあります。千代田区や文京区の区界という立地で、ビルやマンションといった高層建物が多いところです。

地域包括支援センターは中学校区に1つの割合で設置されています(台東区は7か所あります)。介護に関する相談や、成年後見制度や虐待といった権利擁護対応、地域のネットワークづくりなどの業務があります。



当センター外観

## ▶ 地域とのつながり ◀

14階建ての建物の2階に当センター、3階にデイサービス、4～5階は特養です。なお6階からはUR賃貸住宅です。また1階には子ども家庭支援センター、3階には別法人で障害関連の事業所があります。3年前より、この建物内に障害・児童・高齢の役割があることを知ってもらうため合同で「ふれ愛♡台東まつり」を秋に開催しています。地域の方から「施設内の様子が知れてよかった」との声がありました。地域包括支援センターの周知の場にもなっています。なお今年はコロナウイルスのため、中止です。



「ふれ愛♡台東まつり」の様子

# 私の心に残る エピソード

社会福祉法人 慈生会 聖ヨゼフ老人ホーム  
介護副主任 大津 とみ子

## おはようと笑顔の思いで

いつも「おはよう」声を掛けると声を絞り出すように「おはよう」笑顔で挨拶を返して下さる、ご利用者とのエピソードです。その方は、言語障害を患っていましたが、少しの言葉と表情や動作で意思疎通が出来ました。

その方は毎食後、自室で朝の韓国ドラマを楽しまれ、ドラマを見てからベッドで休むことが日課でした。「楽しい？」と声を掛けると笑顔でうなずいてくれました。

当施設は開設40年を超えており、多くの居室が4人部屋です。そのため窓際の好立地を平等とするために以前は、毎年定例のお引越しを行っていましたが、ご本人は「イヤ！動きたくない」と意思表示をされ、私たちもその意向を受け入れていた為、20年ほどその場所で過ごされていました。

「自分で出来ることは自分でする」こちらが危険だからと説明しても、出来る事を行う姿勢は頑固でもありカッコいいと感じてしまう方でもありました。

1998年に入所された、その方にも看取りが訪れました。大好きだったどら焼きとコーヒーも食べる事が出来なくなってしまいました。朝の挨拶に何うと、声を絞り出して「おはよう」と可能な限りの笑顔で私を迎えてくれました。

残念ながら先日永眠されましたが、その方の笑顔をお忘れずに、ご利用者の「その方らしさ」を大切に出来る関りを努めていきたいと思えます。



### 編集後記

「この1か月はほんとに戦場であった」  
……新型コロナウィルスの脅威を物語る一言でした。

感染が発症せずとも、未知のウイルスに錯綜する情報。熱発……感染疑い？濃厚接触？マスクが買えない等々。右往左往の日々でした。マスクは業者が少しずつ手配してくれたり、行政や団体からの寄付を受けたりと、手を差し伸べて頂けたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、助かりました。

ワクチンや特効薬が無い現在では、マスク、手洗いうがい、密を避ける。といった予防は続き、ご利用者の家族面会、外出。施設での行事等。再開の兆しも無く、福祉施設に日常が戻る日は、まだまだ先になる事と思えます。

一人一人が感染予防を心掛け、新しい生活様式の中で過ごす。その積み重ねが、施設を感染から守る大きな力になると信じてやみません。

社会福祉法人北野会  
マイライフ徳丸  
事務職員 長島 利恵

# 命を守る あたりまえを護る そして地域を支える

東京都高齢者福祉施設協議会は、どこよりも多様性に富んだ東京にあって、これからますますニーズが高まる高齢者福祉、介護の発展と充実をめざして活動しています。

いま、新型コロナウイルス感染症の脅威が続く中で、私たち社会福祉法人が運営する高齢者福祉施設、事業所は、担い手である職員の皆さんの健康を守り、安全を高めて、おだやかで安心な高齢者の生活の場を守ることが使命となっています。

新型コロナウイルス感染症の流行は、高齢者にとって大きな脅威です。未知のところが多く、有効な治療法も確立していません。それだけに施設や事業所で働く皆さんは、日々恐れと不安の中で、気持ちを奮い立たせて立ち向かっています。

高齢者福祉を担う皆さんを守ることは施設、事業所そして地域の高齢者を守ることに他なりません。普段であれば一事業所で事足りることも、いまの状況では力不足となるところが大です。

私たち東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都全体はもちろんですが、それぞれの地域でお互いの力を補いながら、協力・連携して、新型コロナウイルス感染症の脅威に立ち向かっていく取り組みをすすめています。

これまでに増して、施設や事業所の枠を越えて力を合わせて、脅威を乗り越えましょう。

東京都社会福祉協議会  
東京都高齢者福祉施設協議会

会長 西岡 修